

昭和16年4月1日（火）

便通なし。正午髭剃り。切手請求、葉書六千受取り来る。巖への土産、絵本、筆入れ、ミワさん持参さる。燈火管制の為、座敷にて仕事をす（屏風を樹て廻し、幕を張り廻したり）。眠きこと甚だし。其の儘九時まで睡り、就寝。

昭和16年4月2日（水）

快晴。昨日同様、予報は午後曇りとあり。切手受取りに出津。森田さんに庄司より小包到来。餅、沢山分配さる。夕食に雑煮を提案され、三時半より餅焼き初む。午前中余の味噌を作られ、余手伝ふ。夕食に珍しく雑煮を頂く。此の朝、ベル鳴るを知らず。五時を過ぐるまで知らず。ベル鳴らざるを不審に思ひ居たり。

昭和16年4月3日（木）

神武天皇祭。此の日、防護団として防空演習に対し、組長の詰め所に出勤のことになり居れり。然し多忙の為、日を繰換え方を要求、承諾を得て、此の日の出勤は繰延べとなれり。午前中快晴、次第に曇り。午後七時頃ミワさん巻脚絆求めるべく、松永洋品店に至れる後を追ふて本町に出づ。三円余にて求め、販らるべく一緒に旧城趾に至る。此の間、近日興業の双葉山大角力の当地興業場、公園地内に出来て居る。金ヘラ二把8銭にて求め、八木のタワシに廻りて、未だ製造に着手せざる由を聞きて販る。

昭和16年4月4日（金）

降雨。午前六時までに朝食を済まし、防護団に出勤す。午前九時警戒解除、其の俣放免となる。天気次第に上

がり、四時頃より晴天となる。此日、結婚披露式一周年記念。鯔飯を作られ、二階と伊勢氏とに振舞ふ。年度手当16、15、15、12、計58円交付分配す。森田さん医師かかり行かる。昨、公園地まで散歩に行けるが仇となり、具合悪きものの如し。二郎手紙、道子具合甚だ悪しとあり。入院手術の要ありと云ふも、道子手術を嫌ひ、処置に窮し居れりと。午後晴天を利用、母堂を連れ公園地に行き、女学校の桜を見て柳町小路を、宮崎楽器部を、魚の辻を経、裏町伝いに販る。夜次第に曇り、降雨。

昭和16年4月5日（土）

朝来雨。午後より曇り、少雨。切手受取りに出掛く。夜、計算書作成、発送す。ミワさん咳多く出て、苦し相。早く寢床。夕方より冷氣。行火を採る。十時近く退局。

昭和16年4月6日（日）

降雨、午後より歇む。行火を採り、渡切り経費年度計を調製。午後より電報原書発送準備す。夕食後アスピリンを求めに行く。伊東にては配給品故、なしと云ふ。風邪薬20にて求め、其の足にて古田薬店に至る。錠剤あり、35と云ふ。五銭不足の儘、品物は持ち来たり。五銭返戻に再び出掛く。晴れ模様なるも、雲の徂徠（そらい）激し。風は寒く、桜花色漸く褪せ初む。ミワさん37、3熱発。寝たり起きたり。夫れでも明日の切手請求調書、作成下さる。行火、火強くして汗出づ。水にて拭き寢床。

昭和16年4月7日（月）

ミワさん熱発の為か、神詣でせず安臥す。余、火を起こし御飯を炊きかけて、道路を掃除す。母堂起きて後の始

未さる。殆ど定刻に朝食す。ミワさんも一緒に食事さる。福田の小母さん来たり、ミワさんを起こす。債券を買ってよきや、及び其の市価を質しに来たりたるなり。朝と午後、中津局に切手請求。中島町角、扇城運動具店裏の枝垂れ、桃の花漸く見頃なり。桜花は色、稍々衰ふ。尚冷氣、行火に火を入る。夕食時にはミワさん食欲ありと云はる。道子より葉書。五日入院。澄子受験に、二郎に連れられ行ける由。二十円見舞す。余、左の頬に腫れ物出来、痛みもせぬが頗る膨脹、絆創膏し附け置く。不体裁なり。十時過ぎ退局。

昭和16年4月8日（火）

朝来寒し。室内火気恋し。朝、切手代金払込に八時過ぎ出発。釈迦降誕花祭り。各寺院、参詣多し。県立女学校入学式。父母姉同伴、欣然跟随する姿嬉し。快晴なるも、風勃然冷ゆ。而して風も甚だ風ぐ。午後六時近く、電報配達、室内に上がり込み来る。表戸六時前に締む。横板戸より侵入。電報は中野桃園56。午後零時三十五分発、午後五時三十五分着。「セ11ジハン オトコ アンザン」とあり。愁眉を開き一同歓喜に満つ。ミワさん神様に御礼詣りやら、今後の経過を祈願し来らる。返電「アンザントキキ ードウ ダイマンエツ ケイシュクニタエズ」。

昭和16年4月9日（水）

前夜遅くより降雨、朝に及ぶ。アスピリン錠35求め来る。ミワさん今朝、七時近くまで起床せず。余程悪かりし模様なり。母堂早く起きらる。此日、双葉山羽黒山一行大相撲、生憎の雨天にて中止となる。近郷よりの人出多し。午後より時々雲途絶え、三時頃より次第に快晴となる。

余程暖かくなる。行火採りたり。

昭和16年4月10日（木）

朝来細雨。切手請求及び受取に行く。朝電話の松本油井両氏に会ふ。手当発表とあり。明日ミワさん、亡父の十三年忌の命日、色々の精進料理の材料購入来らる。今日こそ相撲興行を多数の観客あり。午後、二郎等より発送の風呂桶到着。四梱包、七円余支払ふ。勝手口より入らぬままに玄関より勝手に抜け、人夫と担ぐ。午後、余の味噌造る。硝子屋昨日来たり、修理し去れり。代金請求未済の儘。伊勢さん明日、亡父の法会にて休暇申し出づ。午後より晴れ気味。

昭和16年4月11日（金）

朝晴れ気味。団子作る。座敷に装飾を施し、林檎、草餅、赤飯、其の他数々の煮物を供え、余読経す。九時出勤。森田さん出局。此の日、頗る窓口混雑。小包差出し多し。電報も亦三四通。午後より資金請求に行く。晴れたり曇ったりの天候。相撲は此の日、後藤寺興業。行火に火を採る。

昭和16年4月12日（土）

晴れ。切手資金納付、午後の受領に行く。此の間切符求めて頂く。午後一時フノリ、鯨蕪（かぶら）骨缶詰、羊羹二本等を土産に出発。ホームに待合い中、ミワさん、局長会は五月十八、十九両日と決定した局報を持参さる。途中、各駅共乗客多く立錫の余地なし。赤間附近にて、一女性がカガミながら食事するらしき態を見るに忍びず、立って腰を掛けさす。此の処より四十分間位、立ち続け

る。五時過ぎ帰宅。味飯出来頂く。午後より曇り、雨模様。頗る暖かなり。夜、毛布たち掛く。

昭和16年4月13日（日）

夜来降雨、正午まで降り続く。午前中、三谷から送られた大豆で、打ち豆をやった。一合位潰したろう。此の朝、打ち豆が汁の中に入って居た。嘗て三谷の小母さんより貰ったのが、猶残って居りしものなる由。南京豆、澄子から送り越せしもの、紅茶缶、数個に入れあり。此日は頗る寒し。夜は毛布を除けて蒲団を掛く。今回帰宅して快感を覚えしことは、暈が新装してあることであつた。階下は新調、階上は裏返し。玄関二暈は其の儘。新表替え2, 65、縁共返し1, 00、計27, 20。此の半価13, 60支払ひたる由にて、余より五円無心す。「ふじや」洋服屋に、余の事務服（嘗て道子の袴となりしもの10円にて買い上げ）代金と共に、八円振替払出証書、発送せり。猶、表の洋服屋には久子に持たせ、依頼せり。

昭和16年4月14日（月）

此の日、再び冷ゆ。澄子へ手紙書き初め、中止の儘、明日継続記入するつもり。髭剃り。曇り時々晴れ。市場に買物に行きたるも、生魚何もなき由にて、夕食は肉入り雑炊を頂く。

昭和16年4月15日（火）

漸く晴れなるも、黄砂の為か薄ぼんやりした天気。中津より二郎の手紙回送され、澄子よりも到着。久子へは、葉書に認めあり。学校は応募受験生80、採用56とあり。生徒は皆、本年卒業が多数を占め、断髪ばかりで具合

が悪いとあり。学科は数学ばかりで、二郎ちゃんに教えられて居るが、面倒で、果たして継続し得るか疑問とも云ふ。大いに激励して遣りたり。二郎より送り越した挨拶文の、甚だ首尾一貫し居らぬので、訂正して参考にもと一緒に手紙に挿入して送った。夜、素麺頂く。メリケン粉を求め、例の麵包を作り貰ふべく咄す。処が、市内にメリケン粉は売り居らぬと云ふ。

昭和16年4月16日（水）

日中温暖、綿入れを脱ぐ。晴れ、敷き布団を乾す。久子に年金三円受取り貰ふ。昨夕頂きし素麺の残りを頂く。鯨肉を素麺にも入れ居る。夕方、小麦粉の残りを利用し蒸しパンを作り、外に肉と葱の刻みなどを入れたシチューを作り呉る。久子自身は腹加減悪いとかにて、余り食へず。京子さん方に一皿届けたるらし。

昭和16年4月17日（木）

晴れ。風強くして、窓を開けば机の上を掻き乱さるる惧れあり。久子、京子さんと外出す。朝、京子さん茶碗蒸し持来る。椎茸少々、葱及び筍子等入り、肉なしにて、夫れでも頗る御旨しかりし。四時近く販り、パン土産に持来る。昆布茶五十匁50、約の如く求め来る。夕飯にパン及び餡餅、一ヶ5銭と云ふを二ヶ頂く。向上誌を読み初む。二十日、星野先生宅に例会を報知越しあり。土曜日は「まこと」会にも変わった催しあり。古事記及び日本精神に付き、先生の講義ある筈。午後より曇り。頗る暖かく、夜毛布一枚かけしのみ。

昭和16年4月18日（金）

午前中晴れ。毛布蒲団等、皆屋根に乾せり。午後より曇り。風強く、雨戸を開くべからず。三時頃より再び晴れ。予報は雨降るかも知れぬとありしも、此分では持続けるらし。振替八円及び三月分年金参円、受取りに簗島局に久子を遣る。蒲団は二時間位にて取り入れたり。パン、バターにて炒め、朝食に頂き、夕食は今朝潰せし豆を入れ、汁を作り呉る。御向かいの家より、花卉（かき）を頂きし由にて、花立てに挿し置く。

昭和16年4月19日（土）

快晴、終日陽照る。蒲団四時間近く乾かす。麴（かうじ）70求め来る。甘酒を作る。久子に申し付けしに、余りに熱を与ひし為、だめになりたる様なり。甘藷の焼いたものを求め来る。夕食に頂く。朝とろろ汁頂く。申又修理す。此の朝ミワさんより手紙。甚十郎氏よりの手紙を入れあり。赤坊の名前を達彦と称せりとあり。これまで貢氏と、二回面会し得たりと。貢氏より道子へ和歌。

ひたすらに 君安かれと 祷（いの）りつつ
今産夢（ゆめ）の そそらかと待つ

男の子生ひ 母子健やかと 兄に聞く
わが顔色よ 他人（ひと）よくみよ

酣（かん）と咲き 匂ふ花の その精に
心も身をも 吾子よ染み抜け

大いなる つとめ果たして 産褥にある
君を想へば 何か楽しむ

昭和16年4月20日（日）

鯨百匁1, 05と松屋より切符180求めしむ。午前中電報、中津より、佐世保光子より発信。博多行き、待てとあり。三時過ぎ到着するものと認めて、剃刀研ぎを遣る。四時頃来宅。角野の兄、坂田氏と一旦中津に来たり。不在の為め引き返したるもの。用件は、松原と連名にて家が抵当となり、銀行から融通を受け居るに付き、松原にも出金させ、こちらも返済する為、一時余の保管の土地を抵当とし、調達を受けたしと云ふ。余は、夫れは不成功に終わると見る。自然に副はぬ嫌いあるを以てなりと。夕食を提供す。余は階下にて食事を摂る。両氏相談して、松原が出金する場合、御願ひすると云ふ。坂田氏、八時の汽車にて出発。光子夜泊まる。理髪、剃刀当てて貰ふ。九時頃より久子、光子を連れ外出。十時半頃より、寝る仕度して十一時休む。甘酒失敗。隣家に砂糖を入れて遣ったらし。

昭和16年4月21日（月）

一時半起床。三時半頃より出発の仕度す。雨盛んに降る。洋傘借り、出掛く。鯨煮付け、キャラメル、昆布花1, 30一缶、及び同様の計り売り五十匁50銭、大豆等持参。四時二十分発車。七時三十六分無事着。宇の島より西牟田さん、余の側に乗る。神仏様に挨拶して朝飯を済まし、鯨煮付けを二階に頒ち出局。午後四時、饅頭を振舞ふ。五時夕食。余の為に饅頭二つ残しあり。有難く頂く。夜九時寝るも、ミワさんを起こして独り早く寝るに忍びず。ラジオを聴きつつ依然十時に至る。此日異常に暑し。

昭和16年4月22日（火）

晴れ。急に寒くなる。夕方シャツ着用、行火に火を採る。国債売出しに昨日より活動さる。中津局行き、切手を持戻る。五時過ぎより二階の人、活動行き。慰安会の際、福岡に封切りの民族の。本日初めて来たりし如し。入場券50と云ふ。砂糖一円分内所に求めたる由。二階の連中は十時過ぎに帰る。我等十一時寢床。頗る冷え、行火に火を採るも、木炭に湿気多き為か消えたるもあり。再び冷氣に凍ゆ。十時を過ぎ退局。

昭和16年4月23日（水）

晴天。朝は風風ぎ静穏なるも、次第に風強く、冷氣は依然たり。九時より仕度して出局す。ミワさん午後より外出。証券保管、山崎氏未亡人（田北と称す）より、八百円弱提出分を発送す。夕食とろろ、磨り鉢手伝ふ。アルミニウム鍋、損傷の修理30、盥40、本日調製持参あり。今日、靖国神社臨時大祭初日。夜、行火に火を採りたり。昨日よりは永く保つ。野口さん等、風呂に行く。

昭和16年4月24日（木）

晴天。朝、福岡県内郵便局払込に指定、歳入金を受付、後刻其の誤りを発見。余も責任あり。直に東吉富局に行きたるに、局長為替貯金を担当し居れり。事情を咄し受附けて貰ふ。三十分計りにて帰局。更に中津局に切手受取りに行く。此夕、甘藷を洗ひ置く。十時半寢床。頗る睡し。澄子の手紙、色々形勢不穩。

昭和16年4月25日（金）

曇り、依然寒し。朝甘藷、午後より出局。金光教大祭。

母堂等参詣。夕食うどん。打ち豆を作る。二時間を費やす。伊勢さん遊びに来たりし模様。森田さん明日、大分行きの由。昨手当頒配、旅費出来た為らし。此日靖国神社臨時大祭。天皇陛下御親祭。十時十五分我等黙祷。大祭より販られし母堂、ミワさんより、紅白の餅四切れ頂き、焼きて夕食時に頂く。野口さんも見えし由。十一時寢床。

昭和16年4月26日（土）

快晴。八時より出局。新聞朝刊未着の事由に依る。森田さん午後一時の汽車出発。大分の母堂、病氣見舞の為なりと。曩に野菜等沢山頂ける関係を想起し、丸坊露、箱と共に1, 10求め依頼す。報国債券当たり籤の江副某を糸井商店に訪ふ。目下外泊、不在の由。16セリ売場にて恰度セリの最中なりし。ミワさん余りに悲観し、弗々（ふつつ）つぶやくにぞ、一緒に連れ立ち山国橋の手前、外馬場に製材工場に行かる。垂水總十郎の女房、五百円貯金を国債に振り替え貰ふ。五百円券一枚を望む。他に遣る筈になり居るを融通す。ミワさんにしては、百円券にして呉れと謂へば承諾すべきを云々。自ら垂水を訪ふも成らず。余之を諷して、単独にて売行くと思ふから種々文句も並べたくなる。畢竟神と共に活動すると思へば、愉快に活動が出来る。夫れを譲すことは、神よりの試練に打ち負けたるものにして、乃ち神が其の身边より離脱し、全く孤立の姿となりしに同じ故に、難くとして不在ならざるなしである。

昭和16年4月27日（日）

概要報告作製中途、十時を過ぐ。此日、中尾家伯母の

命日に当たる。夕刻読経す。赤飯、饅頭、馬鈴薯、牛蒡、人参、菟蓐、茸等、種々馳走あり。野口氏にも遣る。四時より母堂も連れ、公園の藤花を見る。往復二時間を要せり。快晴。藤は四五日早かりしも、見頃たる見通し。

昭和16年4月28日（月）

朝冷氣。昨、行火に火を取りし。中津局に切手受取りに行く。中津信用組合に小切手を受取りに行く。一時より第一生命の都留氏、済美修養会本部に会長、総裁等参集を得、大会開催。二時過ぎより第一に行く。夕方、味噌作る。道子より手紙あり。四十円送金す。甘藷洗ふ。

昭和16年4月29日（火）

天長節、観兵式。陛下親臨。新鋭機甲兵団戦車百名、飛行機四五百参加。概要報告作製に没頭。野口さん、巖方に行く。母堂を連れ、ミワさん松竹に推薦映画を見に行かる。六時近く出発。九時前に飯らる。面白くなしと。蓋し新派現代劇らし。十一時寢床。甘藷、朝頂く。午後晴れ。

昭和16年4月30日（水）

朝来晴れ。昨夜、徴兵検査の壯丁（そうてい）多数、二階に泊まる。三時起床。平素より一時間早越し、八時三十分出勤。昨夜、十一時頃まで二階騒々敷くありしと。昨夜、野口氏六時、拂つり帰局。停車場入場券を求め、森田さんを迎ひんとせるも、時既に遅れ、局に来たりしも、二階闇黒、此の上は最終十一時に到着以外途なし。皆寢床、十一時に帰着。本朝十時より出勤。別段、病勢悪化の徴候なし。色々、土産物頂く。此日、髭剃りす。

冷氣。行火に火を入れる頃来、毎夜なり。風邪引き直せし
憾みあり。